
第2 一般概況



第2 一般概況

岩手県は東北地方東部に位置し、青森・宮城・秋田の3県に隣接し、東は太平洋に臨んでいます。面積は15,275km²で、我が国で最大の県です。南北間の長さ189km、東西122km で南北に長い形となっています。

人口は、1,279,594人（2015（平成27）年国勢調査結果）で全国第32位、人口密度は84人/km²で、全国でも北海道に次いで低くなっています。

1 地勢

本県は、山地が大半を占め、中央部は北から南に流れる北上川に沿って北上盆地が開け、東側は北上盆地と太平洋の間に北上高地がほぼ1,000m のなだらかな稜線を示し、西側は東北地方の分水界を作る奥羽山脈が、栗駒、七時雨（ななしぐれ）、八幡平などの火山を伴って南北に縦走しています。その中でも岩手山（2,038m）は雄大な裾野を持っています。

また、河川は、奥羽山脈及び北上高地を源流とし、北上川、米代川、馬淵川及び新井田川等の各水系に集まり、他県に流入するものと、東方に向け直接太平洋に注ぐものとの大別できます。

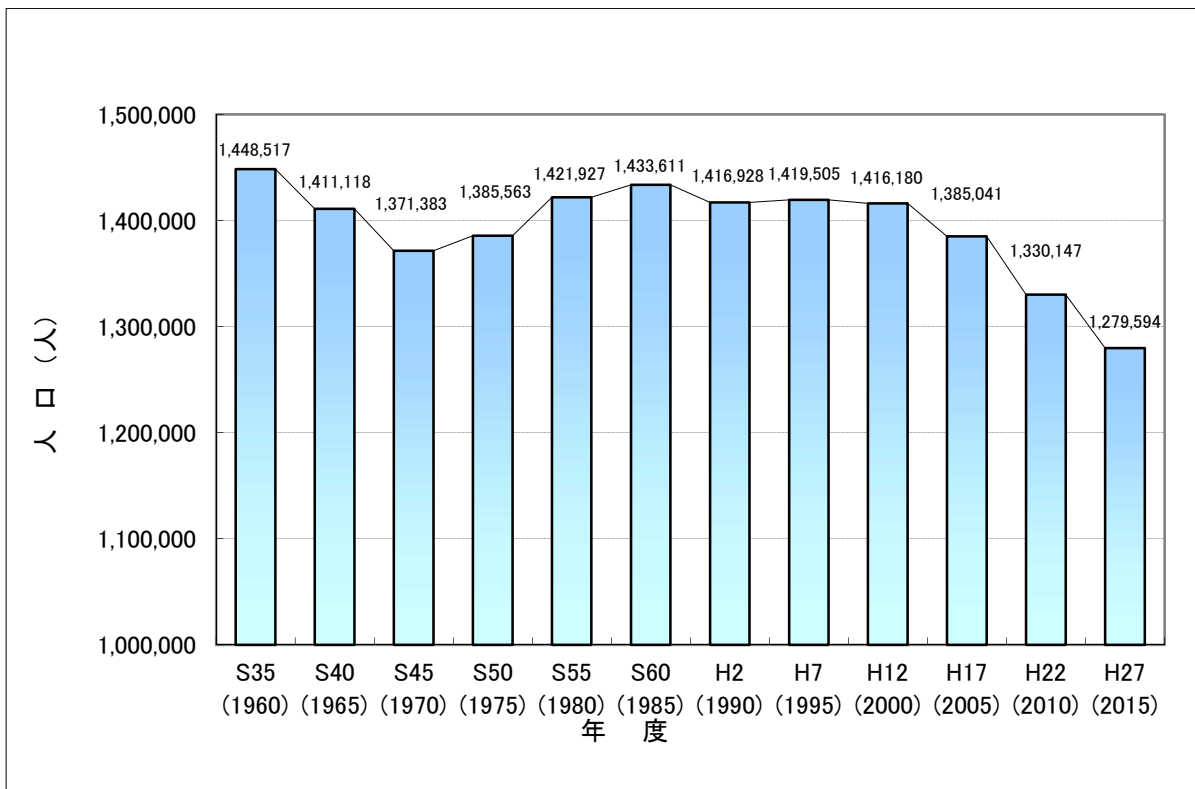
地質構造から見ると、北上高地は古生層の砂岩、粘板岩、石灰岩、千板岩と花崗岩等から構成された隆起準平原で、谷は深いが頂部は小起伏で牧場として利用され、この上に1,917m の早池峰（はやちね）山が、モナドノック（残丘）として突出しています。

奥羽山脈は、基底に第三紀の砂岩、凝灰岩等を持ち、上述火山の溶岩で覆われ、北上川に向かっては断層で落ちこみ、山麓には大小の扇状地が発達しています。北上平野は、これらの扇状地と北上川沖積地によって構成され、また北に向かう馬淵川の段丘と沖積地とともに、本県の耕地の大半を提供しています。

北上高地の東部は、急に太平洋へと落ち、宮古市以南では最大10km におよぶ奥深いリアス式の湾を繰り返し、また宮古市以北では対照的に隆起海岸が続き、雄大な海岸線を示しています。

2 人口

国勢調査による本県の人口は、1960（昭和35）年度の1,449千人をピークとして減少していましたが、1970（昭和45）年度から増加に転じ、1975（昭和50）年度1,386千人、1980（昭和55）年度1,422千人、1985（昭和60）年度1,434千人と年平均0.3%の割合で増加してきました。その後は1990（平成2）年度1,417千人、1995（平成7）年度1,420人、2000（平成12）年度1,416千人、2005（平成17）年度1,385千人、2010（平成22）年度1,330千人、2015（平成27）年度1,280千人と減少傾向となっています。（図2-1）



出典：国勢調査

図 2-1 総人口の推移

3 産業・経済

本県の産業は、2015（平成27）年度における第一次産業¹から第三次産業²までの従業者が636千人、総生産額が4.7兆円であり、第三次産業従業者が全従業者の64%、総生産額の67%を占めており、1985（昭和60）年度と比較して、第三次産業の比率が大きくなっています。

一方、第一次産業の従業者数及び総生産額は、1985（昭和60）年度から減少傾向にあり、2015年（平成27）度の全従業者数に占める割合は11%で総生産額に占める割合は全体の3%まで減少しています。

第二次産業³は、2015（平成27）年度では、1985（昭和60）年度と比較して従業者数が0.83倍と減少しているものの、総生産額が1.8倍に増加し、全従業者数に占める割合は25%で総生産額に占める割合は29%となりました。

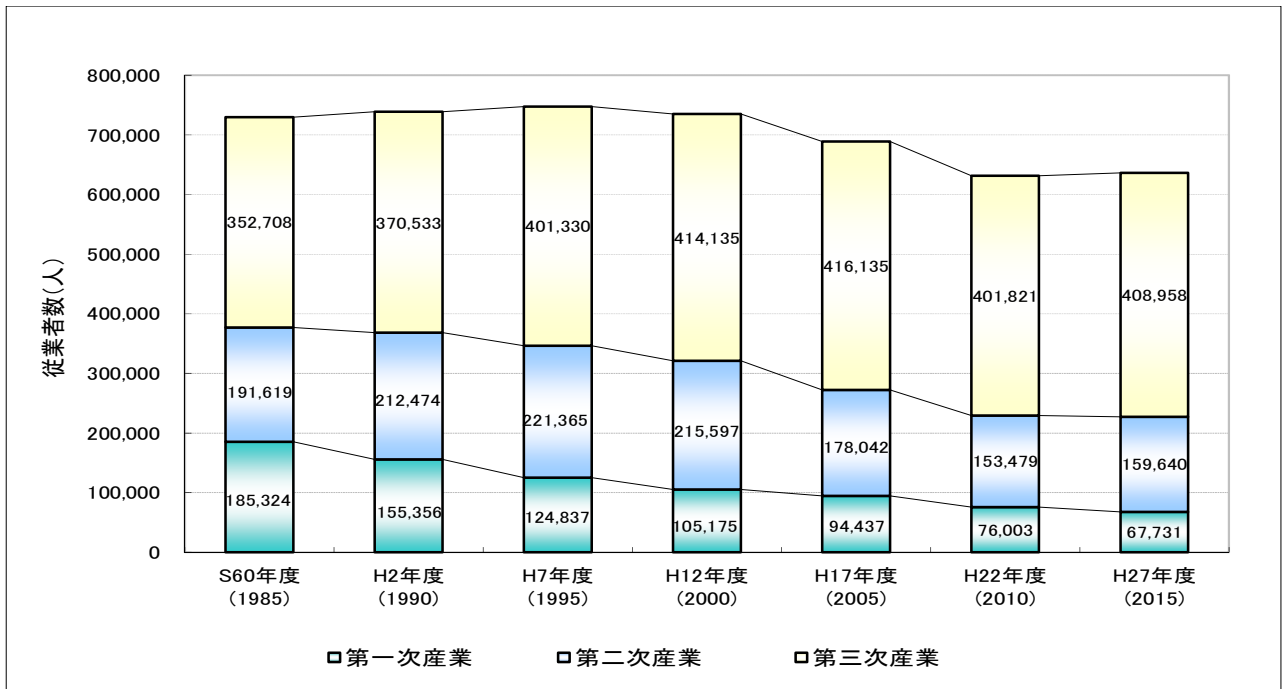
また、製造品出荷額等の業種別構成比の推移（図 2-5、図 2-6）をみると、経年的に出荷額等は増加傾向で推移しており、中でも一般機械と輸送用機械の出荷額等の増加は大きく、それらの構成比は1985（昭和60）年と比較して5.8倍と急激な伸びを見せています。

なお、製造品出荷額当たりの使用水量が多いとされる生活関連産業（食料・飲料・たばこ製造業等）及び基礎資材型産業（鉄鋼業・化学工業・金属製品製造業等）の製造品出荷額は、1985（昭和60）年度と比較して1.2倍に増加しています。

1 第一次産業：農業、林業、漁業

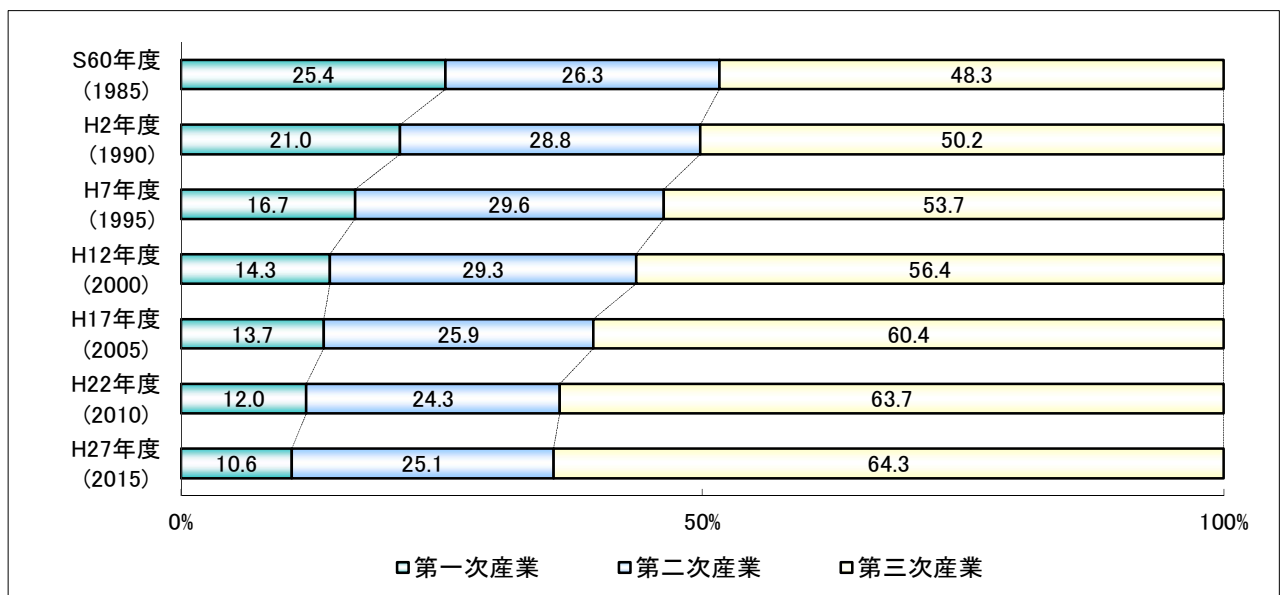
2 第二次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業

3 第三次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品、賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、医療、福祉、公務（他に分類されないもの）等



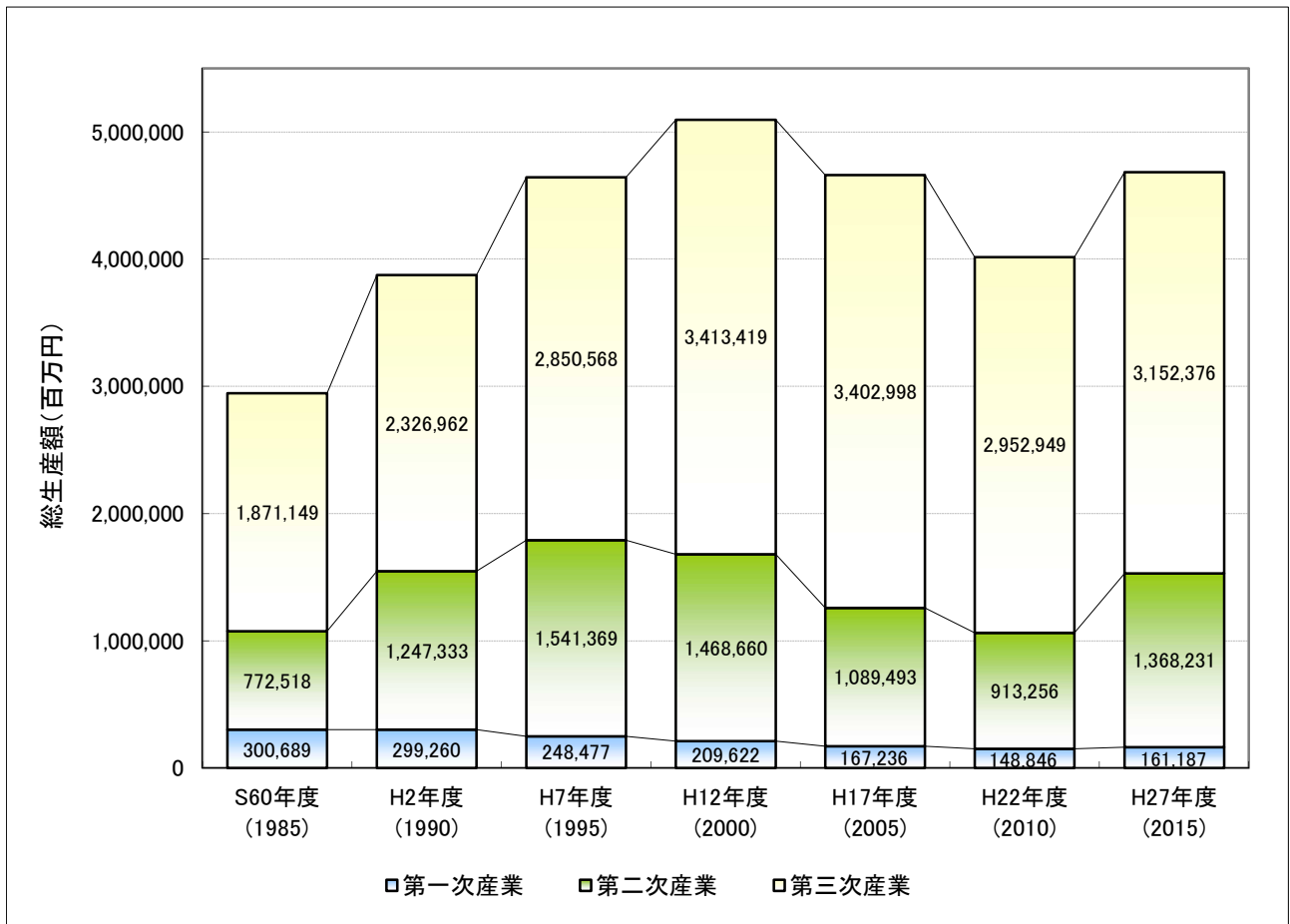
出典：国勢調査報告（人口の労働力状態、就業者の産業（大分類）） 総務省統計局

図 2-2 産業別従業者数の推移



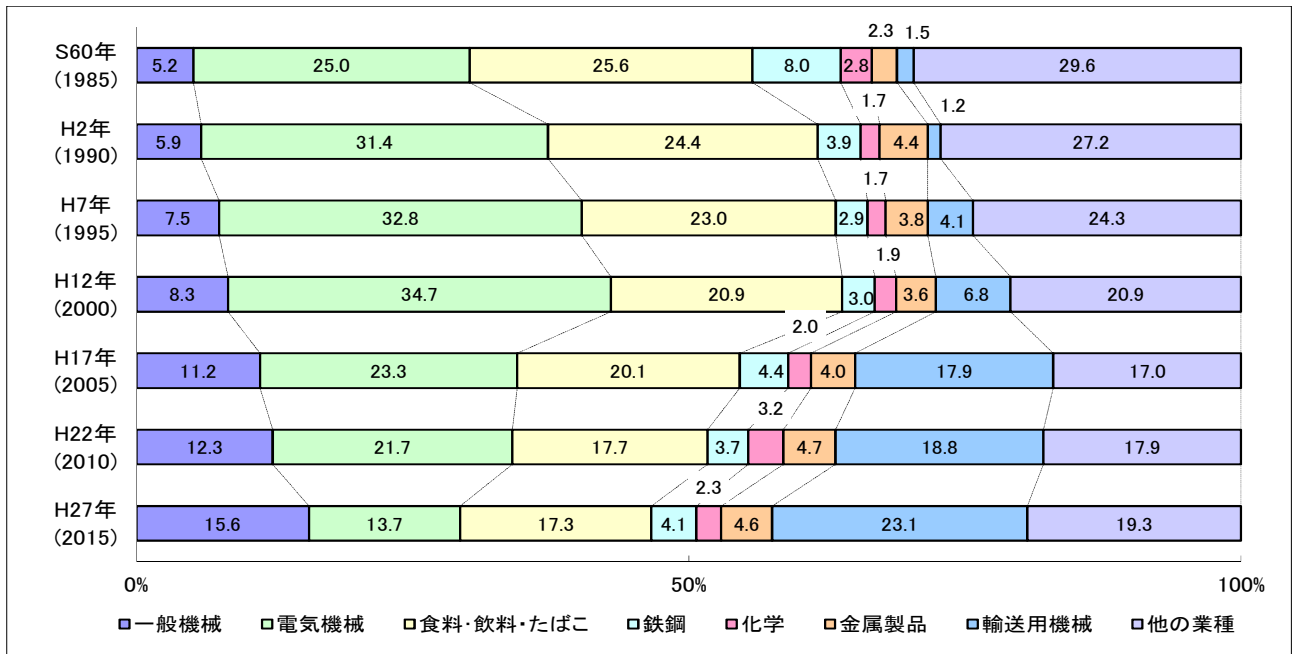
出典：国勢調査報告（人口の労働力状態、就業者の産業（大分類）） 総務省統計局

図 2-3 産業別従業者数の産業別構成比の推移（割合）



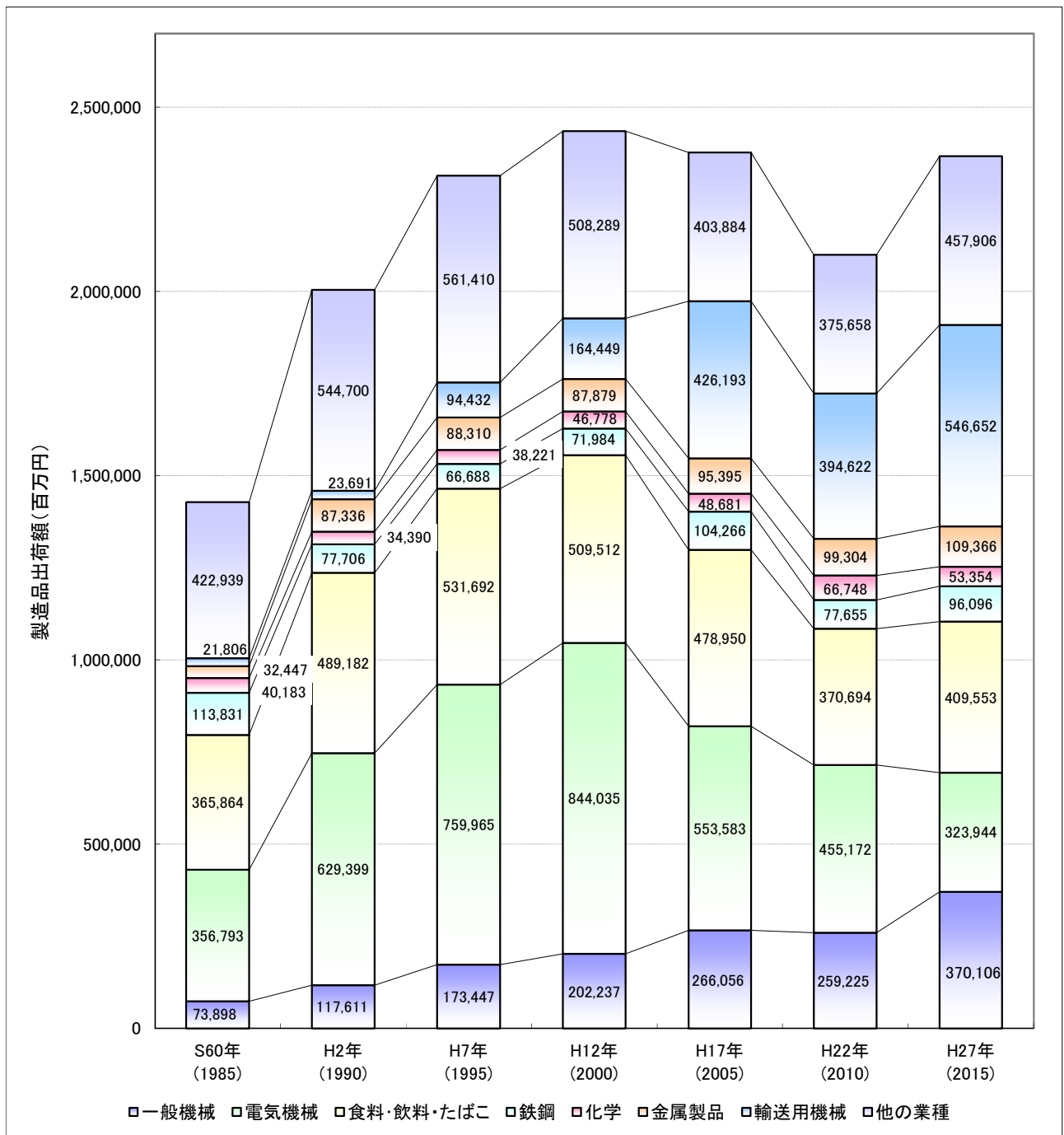
出典：岩手県統計年鑑

図 2-4 県内総生産の推移



出典：工業統計調査報告書 岩手県政策地域部

図 2-5 製造品出荷額等の業種別構成比の推移 (割合)



出典：工業統計調査報告書 岩手県政策地域部

図 2-6 製造品出荷額等の業種別構成比の推移（製造品出荷額）

4 水資源

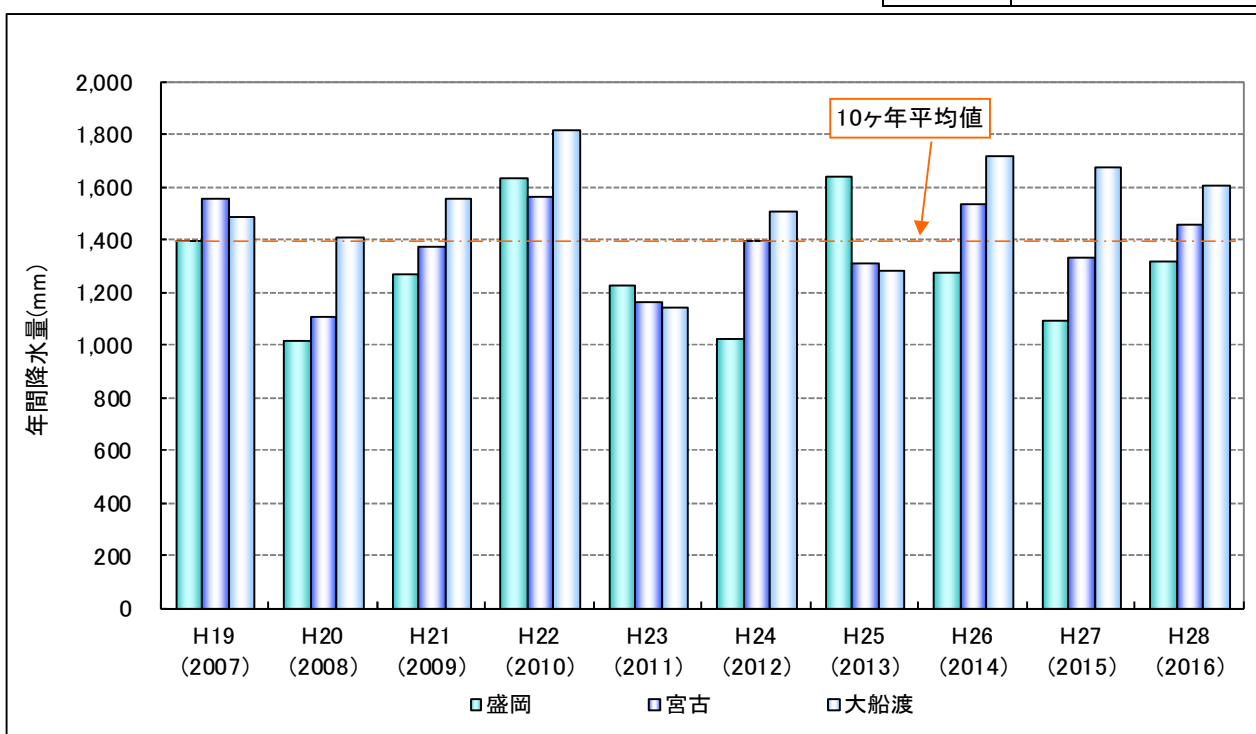
(1) 降水量の概要

本県の気象の観測地点として、盛岡地方気象台、宮古特別地域気象観測所、大船渡特別地域観測所の3地点があります。

本県の年間降水量は、盛岡、宮古、大船渡の3地点での観測値によると、2007（平成19）年から2016（平成28）年までの10年間の平均値は1,181～1,674mm（全体平均1,399mm）であり、宮古、大船渡の沿岸部の降水量が盛岡の内陸部よりも多くなっています。（図 2-7）

（単位：mm）

地点名	2007～2016年平均値 (10年間)
盛岡	1,292.1
宮古	1,384.0
大船渡	1,522.1
平均	1,399.4



出典：岩手県統計年鑑・気象庁HP（気象統計情報）

（盛岡地方気象台、宮古特別地域気象観測所、大船渡特別地域観測所）

図 2-7 岩手県内3地点での年間降水量の推移

(2) 河川の現況

本県の河川は、前述のとおり、奥羽山脈及び北上高地を源流とし、北上川、米代川、馬淵川及び新井田川等の各水系に集まり、他県に流入するものと、東方に向け直接太平洋に注ぐものにと大別できます。

このうち河川法の適用を受ける河川は、2016（平成28）年度末において851河川、総延長は4,433kmであり、その内訳は、一級河川が206河川2,143km、二級河川が106河川976km及び準用河川が539河川1,314kmとなっています。

なお、県内の河川の水質は全般的に良好で、そのほとんどが水質汚濁に係る環境基準のA又はA類型の指定を受けています。

(3) 水源開発の現況

本県では、長期的な視点に立ち将来の水需要に安定的に対応するため、計画的なダム建設による水源開発を行ってきており、現在建設中のダムは北上川水系の築川ダムです。(図 2-8)

表 2-1 水道用水に関連するダムの概要

(単位:m・千m³・km²) 平成29年4月1日現在

名称	河川	所在市町村	目的	型式	堤高 m	堤頂長 m	堤体積 千m ³	湛水面積 km ²	洪水時標高 m	最低水位標高 m	総貯水量 千m ³	有効貯水量 千m ³	事業主体	備考
御所	雫石川	盛岡市	F・N・W・P	G・R	52.5	327.0	1,200	6.40	182.0	172.2	65,000	45,000	国土交通省	
綱取	中津川	盛岡市	F・N・W・(P)	G	59.0	247.0	201	0.79	212.0	183.0	15,000	13,300	岩手県	
入畑	夏油川	北上市	F・N・W・I・P・A	G	80.0	233.0	293	0.63	351.5	312.0	15,400	13,900	岩手県	
世増	新井田川	青森県八戸市	A・N・F・W	G	52.0	247.0	220	1.80	110.0	80.7	36,500	33,100	農林水産省	
胆沢	胆沢川	奥州市	F・N・A・W・P	R	127.0	723.0	13,500	4.40	356.5	304.0	143,000	132,000	国土交通省	
早池峰	稗貫川	花巻市	F・N・W・I・P	G	73.5	333.0	333	0.86	316.8	282.5	17,250	15,750	岩手県	
鷹生	鷹生川	大船渡市	F・N・W・(P)	G	77.0	322.0	328	0.39	287.9	246.0	9,680	9,000	岩手県	
綾里川	綾里川	大船渡市	F・N・W	G	43.0	154.0	70	0.03	113.3	91.6	486	445	岩手県	
築川	築川	盛岡市	F・N・W・P	G	77.2	249.0	229	0.97	296.3	262.0	19,100	16,700	岩手県	建設中

(注) ・目的欄のFは洪水調節または防災、Nは不特定、Aはかんがい、Wは水道用水、Iは工業用水、Pは発電、(P)は管理用発電

・形式欄のGは重力式コンクリート、Rはロックフィル、G・Rは重力式コンクリート・ロックフィル複合ダム

・国・県・民間(東北電力)以外のダムは除いた。

資料：平成29年度版岩手県統計年鑑 (県河川課、農村建設課)

